

総務部

平成25年7月3日（水）、沖縄総合事務局は、宮古島の平良港ターミナルビルにて「しまのゆんたく in 宮古島市」持続可能型社会の構築〜ひとに優しいエコアイランドとしての宮古島おこし〜と題した対話集会イベントを、宮古島市と共催で開催しました。

このイベントは、有識者や地元の様々な分野で活躍されている方との対話を通じ、地域の発意による地域活性化の手がかりとなることを目指して実施したものです。参加者は、当局職員のほか、沖縄県と宮古島の行政担当者、有識者、宮古島内で島の活性化に取り組まれている方々の計20名余で、車座形式によるざっくばらんな意見交換（「ゆんたく」）がなされました。

その中で、参加者からは「島内は生活用水の全てを地下水に頼っており、必然的に水を節約（つまり、エコ）せざるを得ない。さらに、エコについても様々な手段（新エネルギー、バイオエタノール、バイオマス等）を組み合わせて複合的に取り組んでいる。このエコアイランドとしての宮古島が、観光や産業（モノづくり等）にもつなげることを期待している。」「エコについて、子供たちが幼い頃から理解し、学べる

Point

宮古島のエコロジーを活用した島内活性化を題材に、行政・民間・有識者の三者が「ゆんたく」しました。

「しまのゆんたく in 宮古島市」を開催しました

ような教育・啓発の場所が今後必要ではないか。」「離島でのモノづくりはどうしても輸送コストの面で不利となるが、付加価値を高めれば全国から受注ができる。高い付加価値による新しいモノづくりを今後進めていきたい。」「宮古島のサイズに合った、居住人口や観光客のキャパシティというものを最初に設定し、そこからの島づくりを考えていくべき。」「今、島内で取り組んでいる様々な事業などを全てパッケージ化して一括でビジネスとして南太平洋等の島嶼国等に発信していくことが可能ではないか。」「教育や人材育成が、現代ではビジネスとして成立しつつある。宮古島の様々なエコに関する取組も、エコと教育を複合化したビジネスとして開拓・発展できる分野になる。」といった、島内のエコロジーへの取組、経済振興や人材育成についての現場の生の声を聞くことができました。終了予定時間を過ぎても白熱した意見交換は終わらず、非常に活発な「ゆんたく」集会となりました。

今後も、当局では、こうしたイベント等を通じて、地域の振興や活性化を進めてまいります。



“ゆんたく”の模様



長濱宮古島副市長の挨拶



有識者からのアドバイス

参加者（島内活性化に取り組まれている地元の方々）

池 城 かおり 氏
ありんこ文庫 運営代表

伊志嶺 博 司 氏
社会福祉法人みやこ福祉会 理事長

下 地 隆 之 氏
株式会社エコビット 取締役役員

新 城 浩 司 氏
有限会社東和 常務取締役

新 村 一 広 氏
NPO 美ぎ島宮古島 事務局長

砂 川 恵 助 氏
宮古島商工会議所専務理事

砂 川 靖 夫 氏
社団法人宮古島観光協会 副会長

濱 元 雅 浩 氏
社団法人宮古青年会議所 監事

有識者：アドバイザー

中 島 義 和 氏
日本良品貿易株式会社 代表取締役社長

開 梨 香 氏
株式会社カルティバイト 代表取締役社長

前 泊 博 盛 氏
沖縄国際大学 経済学部 教授